

世界遺産暫定一覧表記載資産 準備状況報告書

1. 資産名称

ひこねじょう
彦根城

2. 所在地(都道府県及び市町村名)

しがけんひこねし
滋賀県彦根市

3. 資産の適用種別(記念工作物、遺跡、建造物群の別、文化的景観の適用の有無)

記念工作物、遺跡、文化的景観の適用(未定)

4. 資産の概要

彦根城の東方約 2km には、中世以来の長い歴史を刻んできた佐和山城が存在する。彦根城は、この佐和山城を破城し、慶長 9 年(1604)から約 20 年の歳月を費やして幕府主導で築かれた近世城郭を代表する名城である。

彦根城主井伊家は、関ヶ原の合戦の論功行賞によって佐和山城を宛がわれて以降、代々が譜代大名筆頭として 260 年余続く徳川将軍家を補佐してきた。この間、井伊家は 5 人が 6 回の大老職を勤めるなど徳川政権の要職にあり、中でも大老井伊直弼は日本を開国に導く重要な役割を果たした。

彦根山の山頂には 3 階 3 重の天守がそびえ、その前後には鐘の丸・太鼓丸・西の丸が広がり、各種の櫓が天守を守備するように構築されている。また、太鼓丸と西の丸の端には大堀切、山の斜面には希有な構築物として注目される登り石垣が築かれており、それらが櫓や門・石垣などとも巧妙に連結して高度に発達した軍事的防御施設を形成している。こうした城本来の防御施設とともに、山下には藩庁の機能をもった上屋敷(表御殿)や機能の異なる 2 つの下屋敷(玄宮楽々園・松原下屋敷)など藩主とその一族の居館施設でもある御殿が良好な形で現存・復元されている。彦根城は、防御にさまざまな工夫を凝らした城郭構造や城郭建造物とともに、書院をはじめ能舞台や茶室・庭園などで構成される御殿が良好な姿をとどめており、彦根藩主井伊家に伝来した豊かな美術工芸品や歴史資料などとともに、江戸時代の大名文化を明瞭な形で追認することができる。

一方、彦根の城下町は、湿地を埋め立て、河川を付け替えるなどの大規模な土木工事を実施して新しく造られた計画都市である。城下には 3 重の堀が巡り、堀によって 4 つに区画された城下町の町割りが今日でも良好に残っている。町割りは、武士・町人などの階層や寺院、あるいは魚屋・桶屋・職人などの職種による分化配置が見られ、処々

に階層や職種によって異なる特有の建造物や町並みが今も遺存している。これらの城下町関連資産については構成資産(コア・ゾーン)とはしないが、彦根城の資産価値を高めるためには有効な資産であり、緩衝地帯(バッファー・ゾーン)と位置づける。

また、城下町の北東には彦根城の前身である佐和山城跡が良好な姿を留め、その山麓には、彦根藩主井伊家の菩提寺清凉寺があり井伊家一族の墓所が築かれているほか、井伊直興の発願によって建立された長寿院弁才天堂をはじめ龍潭寺や井伊神社など井伊家ゆかりの社寺が連なって、井伊家の信仰と祖霊崇拜の実態を示すゾーンとなっている。なお、井伊神社(彦根市指定文化財)は、平成24年度に彦根市に寄贈を受けた。

5. 推薦に向けたこれまでの取組・体制整備の状況

(1) 暫定一覧表記載から平成24年度までの取組・体制整備の状況

■ 滋賀県と彦根市との取組・体制整備

滋賀県と彦根市が共同で彦根城の世界遺産登録を推進するため、平成22年度に県教育長を会長、彦根市副市長を副会長とする「彦根城世界遺産登録推進会議」を設置した。

■ 彦根市の取組・体制整備

彦根市では、平成4年の暫定一覧表記載以来、教育委員会において彦根城の世界遺産登録に取り組んできたが、平成19年度には彦根城の世界遺産登録を推進する担当職員を市長部局(企画振興部)に配置し、平成20年度には彦根城世界遺産登録推進室を設置した。また、教育委員会では、平成19年度より教育部とは別に文化財部を新設して2部制とし、文化財部の下に文化財課・市史編さん室・彦根城博物館を置いた。平成20年度には特別史跡彦根城跡の所管を産業部観光振興課から文化財課に所管替えを行い、従来の城山公園事務所を彦根城管理事務所に名を改めて文化財課内に置いた。一方で、平成21年度には、景観と歴史まちづくり事業を推進するため、都市建設部の都市計画課内に景観・まちなみ保全室を設置するなど、全庁を挙げて世界遺産登録に取り組む体制を整えた。平成26年度に教育委員会文化財部に彦根城世界遺産登録準備室を設置予定。

◆ 企画振興部の取組

- ①平成19年度に「彦根城の世界遺産登録を推進する方策を考える懇話会」を設置した。
- ②平成21年度に「彦根城世界遺産登録推進委員会」を設置した。推進委員会に「ワーキング会議」を設けて推薦書原案の素案を作成し、平成22年9月に推進委員会へ提出。以後、世界遺産に詳しい国内有識者に素案を示して指導を受けた。平成23年9月には日本イコモス国内委員会の理事会を彦根で開催し、素案を示すとともに現地視察を願い、具体的な指導を受けた。

③平成 20 年度から「(仮称) 国宝四城近世城郭群研究会」を開催し、姫路城・松本城・犬山城との比較研究など、彦根城の世界遺産登録に向けた研究を幅広く実施。

④ホームページ「彦根城」を開設、リーフレット「彦根城を世界遺産に」(和文・英文)の配布、「世界遺産だより」の発行、出前講座「彦根城を世界遺産に」など普及啓発事業を推進した。

◆教育委員会文化財部の取組

①構成資産に位置付けている各資産の文化財指定に向けた取組を実施した。

- ・平成 13 年度：旧彦根藩松原下屋敷（お浜御殿）庭園の国名勝指定

- ・平成 19 年度：旧彦根藩主井伊家墓所（清凉寺）の国史跡指定

②特別史跡彦根城跡の調査と保存修理を実施した。

- ・昭和 48 年度～：石垣の保存修理

- ・平成 17 年度～平成 21 年度：石垣の総合調査と報告書の刊行

- ・平成 20 年度～平成 22 年度：彦根城跡の詳細測量調査の実施

- ・平成 22 年度～：「彦根城跡内文化財保存活用計画策定委員会」を設置し、城跡内の国指定建造物の保存活用計画策定に着手。また、「大手・佐和口整備実施計画策定ワーキング」を設けて、彦根城の 2 つの正面である大手口と佐和口の整備の検討を開始

- ・平成 23 年度～：彦根城跡内の 5 箇所「登り石垣」の詳細調査に着手

③名勝玄宮楽々園の調査と保存修理を実施した。

- ・平成 17 年度～：楽々園の歴史的建造物の解体修理に着手

- ・平成 20 年度～：玄宮楽々園の名勝指定範囲拡張に向けた調査

- ・平成 21 年度～：玄宮園魚躍沼の水質浄化のためのさく井工事

- ・平成 21 年度～：玄宮園魚躍沼護岸の保存修理に着手

④名勝松原下屋敷（お浜御殿）庭園の公有地化。

- ・平成 15 年度～平成 24 年度：公有地化の完了

⑤歴史まちづくり事業（「彦根市歴史的風致維持向上計画」）を実施した。

- ・平成 21 年度：彦根城と城下町の模型およびCGの制作

- ・平成 21 年度～：旧池田屋敷長屋門の解体修理を完了し公開

- ・平成 21 年度～：金亀会館（旧彦根藩校「弘道館」講堂）の解体移築修理。

- ・平成 21 年度～：旧彦根藩足軽組辻番所（善利組）の解体修理を完了し公開

- ・平成 21 年度～：長曾根口御門跡の発掘調査と復元整備

- ⑥彦根城下町の伝統的建造物群保存地区指定を推進した。
- ・平成 21・22 年度：河原町・芹町の保存対策調査および報告書の刊行
 - ・平成 22 年度：彦根市伝統的建造物群保存地区保存条例の制定
 - ・平成 23 年度～：河原町・芹町地区伝統的建造物群保存地区保存審議会の開催
- ⑦彦根城下町の建造物調査を実施し、縣市指定・国登録文化財とした。
- 平成 16 年度（市指定 1 件）・平成 17 年度（市指定 1 件）・平成 18 年度（市指定 2 件）・平成 19 年度（国登録 1 件）・平成 20 年度（市指定 3 件）・平成 21 年度（市指定 1 件）・平成 22 年度（市指定 2 件・国登録 1 件）・平成 23 年度（市指定 4 件・国登録 4 件）・平成 25 年度（市指定 1 件）
- ⑧佐和山城跡の国指定に向けた取組を推進した。
- ・平成 16 年度～：詳細測量調査（現在、199,000 m²を完了）
 - ・平成 23 年度～：「佐和山城跡総合調査検討委員会」を設立して、国指定に向けた総合的な調査に着手。

◆都市建設部の取組

- ①「彦根市景観計画」を策定した。
- ・平成 19 年度：旧城下町の約 400ha を「城下町景観形成地域」に指定
 - ・平成 20 年度～：景観計画に基づき、景観重要建造物と景観重要樹木を指定
- ②歴史まちづくり事業を推進した。
- ・平成 20 年度～：歴史まちづくり事業により城下町の建造物を歴史的風致形成建造物に指定

(2) 平成 25 年度の新たな取組状況

■滋賀県と彦根市との取組

県市の担当者による勉強会を 5 月、6 月、8 月に開催、彦根城の保存管理計画及び整備基本計画の見直しの必要性について議論を行った。11 月には市長が知事に面会し、世界遺産登録推進にかかる協力を要請。平成 26 年度より県から市に文化財専門職員を派遣予定。

■彦根市の取組

◆企画振興部の取組

- ①平成 25 年 9 月に「彦根ユネスコ協会」と共催で春風亭昇太師匠の落語「城あるきのススメ」を行うなど、彦根城の世界遺産登録を広く市民に啓発する事業を実施した。
- ②平成 25 年 10 月に、日本イコモス国内委員会委員長の西村幸夫東京大学教授を招いて「彦根城世界遺産研究会」を開催した。
- ③小学生用ガイドブック「彦根城を世界遺産に」を作成し市内の

小学生に配布した。

◆教育委員会文化財部の取組

①特別史跡彦根城跡の調査と保存修理等を実施した。

- ・石垣の保存修理
- ・彦根城跡の樹木整備
- ・藩校弘道館跡地の発掘調査
- ・指定地内の公有化

②名勝玄宮楽々園の調査と保存修理を実施した。

- ・楽々園の保存修理
- ・玄宮園魚躍沼護岸整備

③歴史まちづくり事業（「彦根市歴史的風致維持向上計画」）を実施した。

- ・旧彦根藩足輕組辻番所（善利組）の整備完了

◆都市建設部の取組

①彦根市景観審議会の専門部会として、新たに「彦根市景観検討委員会」を立ち上げ、屋外広告物ガイドラインならびに公共サインガイドラインの検討を始めた。

②地域まちづくり計画の策定に向け、上魚屋町・下本町地域における「本町二丁目地区地区計画」の策定に向けた取り組みを地域の住民組織とともに進めた。

③都市計画道路の見直し指針（案）を作成し、「彦根市歴史的風致維持向上計画」の重点区域を含む市内全域における都市計画道路の廃止対象路線の検討を行った。

（3）国宝四城の共同研究

（仮称）国宝四城世界遺産登録推進会議設置に向けた松本市・犬山市・彦根市の担当者による準備会を、それぞれ各市で開催した。

平成 19 年度	1 回	平成 20 年度	4 回	平成 21 年度	3 回
平成 22 年度	3 回	平成 23 年度	3 回	平成 24 年度	3 回
平成 25 年度	3 回				

（4）そのほかの彦根市の取組

①平成 19 年度に「彦根市文化財保護基金の設置、管理および処分に関する条例」を制定して文化財保護基金を設けた。

②平成 20 年度に「ふるさと納税制度」による寄附を文化財保護基金に積み立てる取組を実施した。

③平成 20 年度に「彦根市路上喫煙の防止に関する条例」を制定し、特別史跡彦根城跡とその隣接道路を「路上喫煙禁止地区」に指定した。

④平成 21 年度に「特別史跡彦根城跡における釣りの禁止に関する

条例」を制定し施行した。

6. 推薦に向けた課題

(1) 推薦に向けた課題

彦根城の世界遺産の登録に向けて、文化庁から以下の課題が指摘された。

- ① 世界遺産に登録されている姫路城という同種遺産があることから、姫路城との差異を明確にし、姫路城とは異なった顕著な普遍的価値を有していることを立証すること。
- ② 彦根城の石垣や楽々園建造物の保存修理、玄宮園魚躍沼の浄化や護岸・園路等の保存整備がいまだ形として現れていない。彦根城跡の保存整備をさらに進展させること。
- ③ 文化財保護体制の整備等を図ること。

(2) 課題への対応状況

文化庁の指摘に対して彦根市では、

- ① 彦根城の独自性を証明するため、平成8年度以降、遺構・建造物・庭園そして豊富に伝来する古絵図や古文書などの各調査を継続的に実施している。同時に、姫路城にはない御殿や大名庭園の調査・整備を精力的に行い、価値の証明に努めている。御殿については、上屋敷である表御殿と、2つの下屋敷である玄宮楽々園（槻御殿）と松原下屋敷（お浜御殿）が、それぞれ異なる機能を保ちながら領国内の政務と藩主一族の生活を維持していたことが具体的に明らかになってきている。

天守に代表される城郭建造物は、元和以降の太平の時代の到来とともに本来の機能を失って武威の象徴と化す。一方で御殿は、平和な武家政権を維持するため、権威を演出する舞台として重要な役割を担うようになる。城郭建造物と御殿は、ともに近世という新しい時代の幕開けに確立され、その後、260年余続く武家政権の中で命脈を保った。彦根城に城郭建造物と御殿が共に現存している意義は大きい。

- ② 平成10年度以降、彦根城の計画的な保存整備を開始した。石垣については、昭和48年度から修理を継続中であり、近年は専門職員を充実し、事業規模を拡大して積極的に修理を実施している。平成24年度は2箇所の修理を実施した。また、平成17年度から20年度に実施した石垣の総合調査が完了し、平成21年度には報告書を刊行した。現在は、調査成果を基に修理計画を見直し、新たな計画に沿って修理を行っている。名勝玄宮楽々園については、平成17年度より長期計画を立て、楽々園の歴史的建造物について順次解体修理を実施中である。平成21年度からは、3ヶ年計画で最も大きな歴史的建造物である御書院棟の解体修理を行い、平成23年度に完了した。平成24年度からは、御書院棟の奥に延びる

「地震の間」などの数寄屋建築へと修理の手を広げている。玄宮園については、魚躍沼の水質浄化を行うため、さく井工事を実施して地下水による復元的な給水を準備している。また、現在の桜場駐車場一帯を試掘調査し、かつての玄宮園の範囲を確定することができたため、名勝範囲拡大の意見具申を行った。一方で、課題であった玄宮園の魚躍沼の護岸についても、平成 21 年度より 9 年計画で発掘調査と復元整備を実施している。

名勝松原下屋敷については、平成 14 年度に彦根市が管理団体となり、平成 15 年度以降、公有地化を行ってきたが、平成 24 年度で公有地化を完了した。今後は、庭園の保存整備や歴史的建造物の修理に向けて、計画を策定する予定である。

③ 文化財保護体制については、平成 19 年度から教育委員会の中に新たに文化財部を設けて文化財の保護と活用の実務を行っている。平成 21 年度は、埋蔵文化財の専門職員 3 人と文献史学の専門職員 2 人を、また平成 23 年度には美術工芸の専門職員を新たに採用し、文化財部の専門職員の合計を 21 人に充実させた。

7. 基準の適用

(iii) 防御にさまざまな工夫を凝らした城郭建築・城郭構造、書院をはじめ能舞台や茶室、庭園などで構成される御殿、そして動産ではあるが、御殿を荘厳し、御殿で用いられた武器武具、能面・能装束、茶道具、調度品、歴史資料などが豊富に伝来している。一方で墓所やゆかりの寺院など大名家の信仰と祖霊崇拝の実態を示す施設が今日に伝えられており、それらが一体となって江戸時代の大名文化の存在を明瞭に伝える無二の物証である。

(iv) 彦根城は、彦根山の地形や立地を活かして、丸と曲輪、大堀切、石垣、登り石垣、そして内堀・中堀などを巧妙に配置するなど、日本の近世城郭最盛期の防御技術を駆使して築城している。また、天守をはじめとする城郭建造物は、多様な破風を組み合わせるなど独特で優美な外観を構成しており、日本の近世城郭史上極めて美的完成度の高い建造物群である。防御施設として、また武威の象徴として、17 世紀初頭の英知を結集した傑作であり、日本の近世封建制（後期封建制）確立期の顕著な見本である。

8. 真実性／完全性の証明

彦根城の天守や各櫓は、昭和 30 年代に相次いで解体調査を実施した。調査の結果、天守では墨書のある建築材が発見され、天守の完成が慶長 12 年(1607)頃であり、前身の建物が 5 階 4 重の旧天守であることが判明した。旧天守は井伊家に伝来した古文書『井伊年譜』などの記載により、大津城天守を移築したものと推測される。同様に解体調査や文献調査などから、天秤櫓は長浜城大手門から移築された可能性が高

く、太鼓門櫓と西の丸三重櫓も移築櫓であることが明らかである。

一方、城下には機能の異なる3つの御殿が存在する。藩庁としての表御殿、藩主の隠居地としての玄宮楽々園（槻御殿）、離宮としての松原下屋敷（お浜御殿）である。これら3つの御殿は、ともに井伊家に伝来した古絵図が豊富に存在し、調査の結果、各御殿の詳細な変遷が明らかとなった。表御殿は、古絵図と発掘調査の成果が明瞭に符合したことから、文化庁の指導により復元的に整備することとした。復元に際しては、旧藩主井伊家伝来資料の収蔵・展示機能を保つため、それらのエリアについてはRC構造の外観復元とし、それ以外については木造や遺構により御殿の完全復元となるよう努め、総体として彦根城のデジタルセンター的な機能を持つ彦根城博物館とした。楽々園や松原下屋敷を描いた絵図は、建造物の修復に活用している。また、彩色豊かな玄宮園絵図など各庭園の絵図も数多く伝来しており、坪庭絵図はその希少性が注目される。現在、これらの絵図や発掘調査の成果を基に、各庭園の修復に努めている。

また、佐和山山麓には井伊家墓所や井伊家ゆかりの社寺が連なり、近世大名井伊家の信仰や祖霊崇拜の実態を垣間見ることができる。

彦根城は、高度に発達した城郭構造と天守や櫓などの城郭建造物を配し、江戸時代の大名文化を髣髴とさせる御殿が良好な姿をとどめるなど、江戸時代260年余の長きに渡って存在した日本の近世大名を代表する顕著な見本として、その完全性を証明するに十分である。

9. 類似資産との比較研究

平成19年度に設置した「彦根城の世界遺産登録を推進する方策を考える懇話会」において、姫路城との対比を通して彦根城の顕著な普遍的価値の証明に取り組んだ。

また、平成20年度からは、松本市、犬山市とともに、(仮称)国宝四城世界遺産登録推進会議準備会を開催して、姫路城、松本城、犬山城との比較研究等に取り組んでいる。主に城郭施設や御殿、城下町の遺存状況などについて比較研究を行っており、その結果、彦根城は、姫路城同様に最盛期の城郭建築として、複合式の天守や多様な櫓が良好な姿をとどめていることを明確にした。これらの城郭建築は建築史上、あるいは美術史上高い完成度を示している。

一方、姫路城や松本城、犬山城に認められないものとして、書院をはじめ能舞台・茶室・庭園などで構成される御殿が存在する。藩庁の機能を持った表御殿が復元整備されており、江戸時代には槻御殿と称した玄宮楽々園と松原下屋敷（お浜御殿）の2つの下屋敷が現存しており、ともに国の名勝として往時の姿に修復整備中である。また、復元された表御殿は博物館として活用しており、旧彦根藩主井伊家に伝来した美術工芸品や歴史資料などを収蔵している。美術工芸品として表道具の刀剣や甲冑などの武器・武具、文化的教養の高さを物語る茶

道具、能面・能装束、調度品、書跡・絵画など 5,184 件があり、歴史資料として古文書など 37,489 件を蔵する。これらの伝来資料の中には、国宝の彦根屏風など指定物件も多く、譜代大名筆頭として大老職を 5 人で 6 回輩出するという高い格式を誇った大名家に値する質と量を備えている。こうした資料は動産であるが、御殿や城郭施設を荘厳するものとして一体で理解すべきものであり、総体として江戸時代の大名文化の精華を明瞭に伝えているといえよう。同時に、博物館には表御殿時代の能舞台を当初の位置に移築復元しており、表御殿の奥向きは発掘調査や古絵図に基づいて木造で復元している。

また、姫路城や松本城は、城下町の面影を伝えるものが余り残っていない。彦根城の城下町は、幾多の災禍を免れて 400 年前の都市計画のあり様を示す城下町の町割りがほとんど残っており、武士・町人などの階層や寺院、あるいは職種によって異なる特有の建造物が処々に遺存している。こうした建造物に対する市民の愛着は強く、近年、官民一体となった保存運動の盛り上がりも顕著である。現在、伝統的建造物群保存地区や歴史まちづくり法による事業を進めており、今後とも緩衝地帯（バッファー・ゾーン）として保存整備に努める。

彦根城は、城郭施設・御殿・城下町の 3 者がともに良好な形で保存され、日本の近世の城総構えを代表する顕著な見本である。

平成 21 年度からは、「彦根城世界遺産登録推進委員会」の下にワーキング会議を設けて、推薦書原案の素案を作成し、平成 22 年 9 月に推進委員会へ提出した。以後、世界遺産に詳しい国内有識者に素案を示して指導を受けており、平成 23 年 9 月には、日本イコモス国内委員会の理事会を彦根で開催していただき、理事各位に推薦書原案の素案を示すとともに現地視察などをお願いして、具体的な指導を受けた。また、平成 24 年 11 月には、海外専門家を招いて「彦根城世界遺産登録研究会」を開催し、海外の世界遺産専門家という視点で指導を受けた。今後は、国内外の類似資産との比較研究をより進めて、彦根城の世界的な価値の証明に務めていく予定である。

1 0 . 構成資産(コア・ゾーン)の一覧表及び位置図

一覧表：別紙「構成資産(コア・ゾーン)の一覧表」のとおり

位置図：別紙「構成資産・緩衝地帯位置図」のとおり

1 1 . 緩衝地帯(バッファー・ゾーン)の位置図と適用される規制の内容

位置図：別紙「構成資産・緩衝地帯位置図」のとおり

規制の内容：

- ・彦根市伝統的建造物群保存地区保存条例（平成 23 年 3 月制定）
- ・彦根市景観計画に基づく城下町景観形成地域に指定
- ・都市計画法に基づく地区計画（本町地区）、風致地区（彦根城風致地区・芹川風致地区・雨壺山風致地区・佐和山風致地区）に指定
- ・旧善利組足軽組屋敷地区や旧本町地区などについては、都市計画

法に基づく新たな地区計画の導入などを検討中

1.2. 保存管理計画の策定状況

- ・「特別史跡彦根城跡保存管理計画」（昭和 59 年 3 月）
- ・「特別史跡彦根城跡整備基本計画」（平成 4 年 6 月）
- ・「名勝玄宮楽々園整備基本計画」（平成 9 年 3 月）
- ・「名勝旧彦根藩松原下屋敷（お浜御殿）庭園保存管理計画」（平成 15 年 3 月）
- ・「彦根藩主井伊家（清凉寺）墓所保存管理計画」（平成 26 年度作成予定）
- ・「包括的保存管理計画」（平成 26 年度以降作成予定）

1.3. 推薦に向けた今後の準備スケジュール

平成 21 年度からは、「彦根城世界遺産登録推進委員会」に具体的な実務を行うワーキング会議を設置して、推薦書原案を作成し、平成 22 年 9 月に推進委員会へ提出した。以後、世界遺産に詳しい国内有識者に素案を示して、指導を受けてきたが、平成 23 年度に日本イコモス国内委員会理事らを招いた研究会での意見を受け、より確実に早期の登録を目指すため、構成資産を絞り込む方向で構成資産（コア・ゾーン）を変更。従来の推薦書原案についても修正を加えた。また、平成 24 年 11 月には、海外専門家からいただいたアドバイスを基に推進委員会で検討し、旧松原内湖を緩衝地帯（バッファー・ゾーン）に加えた。

平成 26 年度からは、平成 25 年 4 月の世界文化遺産特別委員会からの課題を受けて、特別史跡彦根城跡の保存管理計画及び整備基本計画の見直し作業を行うとともに、類似遺産との比較研究、個別保存管理計画の策定、包括的保存管理計画の策定、その他推薦に向けた諸課題に取り組んでいく予定である。

また、滋賀県と連携を図りながら組織体制を見直し、今後の方針について協議を重ね、国からの指導・助言等を得ながら、推薦書原案を作成し、速やかに国から推薦をいただけるように取り組んでいく。

別紙1 構成資産（コア・ゾーン）の一覧表

資産名称 彦根城

No.	構成資産の名称	国の 保護措置状況	その他の 保護措置状況	所在地	指定にむけた 準備状況	備考
1	ひこねじょうせき 彦根城跡	特別史跡	—	滋賀県彦根市	詳細測量調査完了 石垣保存修理（継続） 樹木整備 重要遺構（登り石垣） 調査中	
	ひこねじょうてんしゆ 彦根城天守	国宝	—	滋賀県彦根市	保存活用計画策定中	
	ひこねじょうたいこもんやぐら 彦根城太鼓門櫓	重要文化財	—	滋賀県彦根市	保存活用計画策定中	
	ひこねじょうてんびんやぐら 彦根城天秤櫓	重要文化財	—	滋賀県彦根市	保存活用計画策定中	
	ひこねじょうにし まるさんじゅうやぐら 彦根城西の丸三重櫓	重要文化財	—	滋賀県彦根市	保存活用計画策定中	
	ひこねじょうに まるさわぐち 彦根城二の丸佐和口 たもんやぐら 多間櫓	重要文化財	—	滋賀県彦根市	保存活用計画策定中	
	ひこねじょううまや 彦根城馬屋	重要文化財	—	滋賀県彦根市	保存活用計画策定中	
	げんきゆうらくらくえん 玄宮楽々園	名勝		滋賀県彦根市	名勝範囲の変更（拡大）を意見具申済み 玄宮園魚躍沼護岸の 保存整備中 楽々園歴史的建造物の 保存修理中	
2	まつばらしもやしき はまごてん 松原下屋敷（お浜御殿） ていえん 庭園	名勝	—	滋賀県彦根市	公有化を完了 保存整備計画策定中	
3	ちようじゆいんべんざいてんどう 長寿院弁才天堂	重要文化財	—	滋賀県彦根市		
4	ひこねはんしゆい いけぼしよ 彦根藩主井伊家墓所	史跡	—	滋賀県彦根市	保存管理計画策定予定 保存整備計画策定中	

構成資産・緩衝地帯位置図

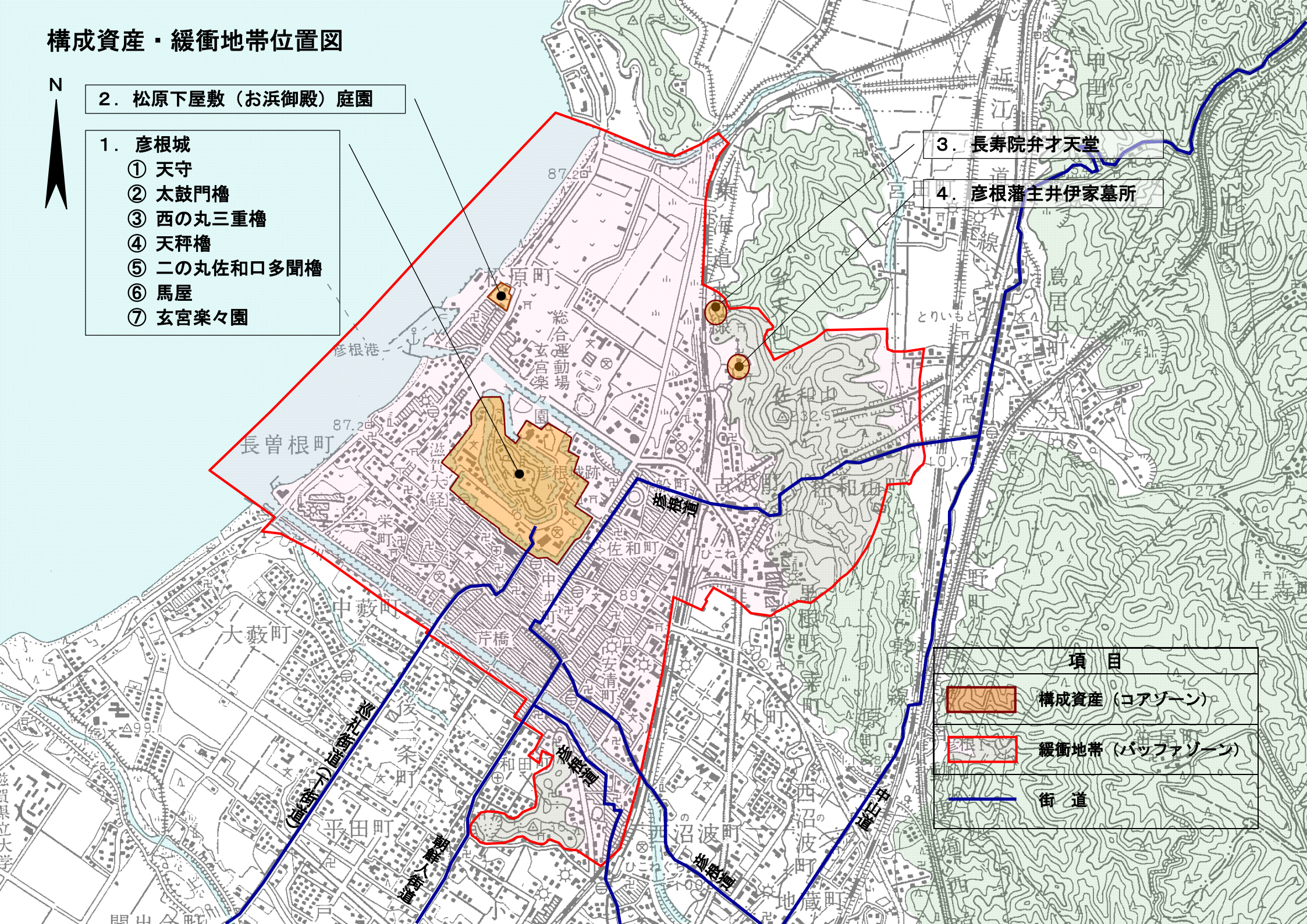





2. 松原下屋敷（お浜御殿）庭園

1. 彦根城
- ① 天守
 - ② 太鼓門櫓
 - ③ 西の丸三重櫓
 - ④ 天秤櫓
 - ⑤ 二の丸佐和口多聞櫓
 - ⑥ 馬屋
 - ⑦ 玄宮楽々園

3. 長寿院弁才天堂

4. 彦根藩主井伊家墓所



項目	
	構成資産 (コアゾーン)
	緩衝地帯 (バッファゾーン)
	街道